

審議会等会議録

審議会等の名称	平成 29 年度第 1 回山口市立図書館協議会
開催日時	平成 29 年 5 月 24 日（木曜日） 15:00～17:00
開催場所	山口市役所別館 第 2 会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	安光会長、吉村副会長、糸長委員、大野委員、田坂委員、中原委員、中村委員、原田委員、國弘委員、山口委員
欠席者	牛見委員、大林委員
事務局	中央図書館長、小郡図書館長、秋穂図書館長、阿知須図書館長、徳地図書館長、阿東図書館長、中央図書館管理担当主幹、中央図書館サービス担当主幹
議題	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 平成 28 年度山口市立図書館運営状況報告</p> <p>(2) 各館の平成 28 年度事業実績及び平成 29 年度事業予定</p> <p>(3) 第三次山口市立図書館サービス計画（平成 30 年度～34 年度）の骨子について</p> <p>(4) その他</p>
内容	<p>○会長</p> <p>それでは、平成 29 年度第 1 回山口市立図書館協議会の議事を開催いたします。</p> <p>今日の議事は、報告事項ということになりますけれども、本日は 3 件ございます。最初に、平成 28 年度山口市立図書館運営状況報告ということにつきまして、事務局から御説明をお願いいたします。</p> <p>○事務局</p> <p>それでは、資料 1 をごらんください。</p> <p>平成 28 年度山口市立図書館運営状況のほうを御報告させていただきます。</p> <p>失礼して、座って説明をさせていただきます。</p> <p>平成 28 年度の概況につきまして、1、小郡図書館 B D S の更新。10 月に小郡図書館のブックディテクションシステムの更新を行っております。このブックディテクションシステムとは、図書無断持ち出し防止装置の略でございます、それをまた新たに更新を行っております。</p> <p>次に、中央図書館夏季時間延長試行実施。「夕涼みプラス 2」と銘打って、7 月、8 月の土日祝日に、試行的に 2 時間延長を実施しました。平成 26 年から 3 年間で、この試行を実施しております。延長時間帯における利用者数が伸びず、平成 29 年度、今年度は、実施はいたしません。市民アンケートの結果等も踏まえまして、今後サービスの拡充を検討して、利用者増へとつなげてまいります。</p> <p>続きまして、市民アンケートの実施を行いました。次期サービス計画の策定の参考資料とするために、7 月から 8 月にかけて市民アンケートを実施いたしました。約 2,000 名に発送いたしまして、有効回収率数が 632、回収率は 31.5%で</p>

した。

平成30年から34年の5カ年計画の参考資料としてアンケートを実施しております。統計学的には精度の高い調査結果が必要になる場合は400サンプルが必要ということが一般的でございます。今回も、632のサンプルということで、有意であるという判断で、有効水準の基準となると思われま

す。続きまして、こどもワイワイ図書館の実施。市立図書館全館で、同日イベントとして、5月1日に実施いたしております。

次に、館別状況を報告いたします。

中央図書館では、鹿児島市立図書館と連携した図書館薩長同盟やFM山口とコラボした取り組みなど、行事を積極的に行っております。

小郡図書館では、新規利用者の増加を目指し、友の会「鉢の子」との共催講座を積極的に行っております。

秋穂図書館、AV資料の充実を図りました。

阿知須図書館、丁寧な接客対応に努めるとともに、新たな利用者の拡大促進を目指し、佐山地域での情報発信などを進めました。

徳地図書館、歴史講演会の開催やぬいぐるみのお泊り会など、積極的な行事を行いました。

阿東図書館、4月から阿東図書館に阿東地域の交流センター分館への配本を本格的に開始しまして、周知を進めました。

後ほどの事項に記載しておりますけれども、この交流センター分館への配本は、今回の4月からおきまして、新規の登録が1名、貸し出し冊数が97冊、返却冊数が164冊となっております。

続きまして、図書館での事務事業別概況でございます。

これは、事務事業は7事業ございまして、1つ目の事業、図書館管理運営業務。このうち、続きまして、図書館協議会の開催。年3回開催しております。内容は以下のとおりです。

2、朗読ボランティア養成講座。1月16日実施いたしまして、参加者が22名です。

2つ目の事業といたしまして、移動図書館管理運営業務です。4月からサービスステーションを36カ所から39カ所に増加して、巡回いたしました。ふやした場所3カ所は、さくら小学校、大海総合センター、秋楽園の3つでございます。

利用総数といたしましては、貸し出し冊数が2万9,613冊、前年度に比べまして、1,194冊増えております。利用者数は1万2,507人、前年から比べましたら、120人の増となります。

3つ目の事業、図書館資料整備事業。各館で選書を行いまして、選書委員会で受け入れ資料の決定をいたしました。購入点数が3万9,731点、寄贈受け入れは2,745点、除籍数2万5,367点、内容は右のとおりです。

4つ目の事業、学校図書館支援サービス推進事業です。

1つ目、モデル校、これは湯田小学校ですけれど、学校図書館指導員を派遣するとともに、団体貸出図書の学校定期配送を行いました。団体貸し出し、これは学校へのものですが貸し出し数が3万7,541冊、前年度に比べましたら、511冊減となっております。学校配送用資料購入数927冊。これは前年から比べましたら、52冊の増です。

2つ目、学校からの要請に応じて、出張ブックトークを実施いたしました。小中学校が16校、延べにしまして、35回、3,215人の参加という形になっております。これも前年から比べましたら、小中学校で6校、延べ回数で8回、人数が1,004人それぞれ増となっております。

3つ目、職場体験やインターンシップを受け入れました。

職場体験延べ16回、人数にいたしまして、28人。これは回数が12回、人数が21人の減となっております。インターンシップの受け入れは4回いたしまして、5名。これは回数にして3回、人数4人の増となっております。

4つ目、学校図書館指導員研修会への参加。また、学校教育課の担当指導主事と毎月定例的な打ち合わせを行いました。

5つ目の事業、ブックスタート推進事業。

1、ブックスタート体験会を開催。これは104回開催されまして、参加率、対象者のうち参加率が72%。これも前年度に比べまして、1.7ポイントの減となっております。2つ目、ブックスタート推進委員会の開催。5月26日木曜日に実施いたしました。3つ目、ブックスタート体験会へ参加できなかった方のうち、希望される方に本を郵送いたしております。郵送冊数は99冊。そして、ブックスタートパック贈呈率は86.4%。これは1.8ポイント前年度より減となっております。4つ目、ブックスタートボランティア養成講座を実施いたしました。10月24日実施いたしまして、参加者数は10名となっております。5つ目の事業、子ども読書活動推進事業。これは以下の3つを実施いたしました。7つ目、図書館活動推進事業。これは新たな利用者層の拡大に向けた事業等を行いまして、以下6つの事業を行っております。こどもワイワイ図書館。これは前述のとおりでございます。2つ目といたしまして、各館での図書館まつりは以下のとおりで、年間合計といたしまして、6,707人の参加数となっております。前年度に比べまして、1,298人増。約24%の増加となっております。次に、図書館で学ぶウォーキング、真田一族に見る戦国から江戸への移り変わり、やまぐち歴史講座、図書館薩長同盟と銘打った行事を実施いたしました。他機関との連携といたしまして、1つ目、山口大学、山口県立大学図書館の相互返却、これを実施いたしました。市立図書館の本を大学図書館で返却。この数が合計として、1,785冊です。大学図書館の本を、市立図書館で返却。39冊となっております。

次にありますのが、阿東地域分館配送及び新サービス計画に向けての調査結果は先ほど申しましたとおりでございます。県外視察等は以下のとおりに行っております。以上、平成28年度山口市立図書館の運営状況でございます。

○会長

どうもありがとうございました。

それでは、今の平成28年度の図書館運営状況につきまして、何か御質問等あれば、お願いいたします。

もし、できれば、吉村先生の時間がありますので御質問があるかもしれませんが、後にさせていただいて、各館からの28年度事業実績と平成29年度事業予定ということで、手短にお願いしたいと思います。

それでは、中央図書館から手短にお願いいたします。

○事務局

中央図書館では、図書館全体の予算、施設や職員の管理など全体的な管理運営を行っております。

28年度につきましては、資料3をごらんください。1番上のところでございますが、28年度事業につきましては、先ほどざっと説明してもらいましたので触れませんが、29年度の主な取り組み予定ということで、主な点といたしまして、図書館利用層の拡大、子ども読書活動の推進という点からの事業を掲げております。

図書館利用者がちょっと固定化したり、若年層が相対して少ないという統計の数値がございますので、今までからある事業についてはブラッシュアップ、そして新しい事業を行い、また、連携という切り口からも事業展開を図るものでございます。内容的につきましては、ご覧のとおり、明治150年を市全体の取り組みに応じた薩長同盟に関係したもの、市内の他部署と連携で行うもの、それから民間事業者と連携するもの、今、レノファとの連携事業をやっておりますが、そういうものを実施します。子どもの読書活動については、子供たちに読書という楽しみを感じてもらいたいということで、ブラッシュアップを目指しますとともに、子供たちに夢を感じてもらえるような講演会を行えたらということで計画をしております。

それから、中央図書館は来年15年になりますが、そろそろ施設や設備関係に課題が出ておるところでございます。サービスに直結するものなど、計画的な更新をしていきたいと（今後に向けては）考えているところです。

○会長

ありがとうございます。それでは、小郡図書館お願いいたします。

○事務局

28年度は、特に図書館友の会「鉢の子」さんとの共催事業を行うことにより、新規利用者の増加を図るところに力を入れました。ワイワイ図書館、ビブリオバトル、自由研究にチャレンジ、紙芝居「平和を愛して」、紙粘土でデコスーツ、図書館まつり、クリスマスブックカフェ、古代骨が語る土井ヶ浜遺跡と日本人のルーツ等を行ってきました。

2番目は、団体貸出用資料や閉架書庫内の資料整理を行うということで、小郡全ての図書、雑誌等を入れて11万点ぐらいあり、除籍が必要になっております。本格的に除籍元年という形で28年度を捉えてやってきました。

29年度はその延長線で閉架書庫内を特に整理を行って、除籍を行いながら、新しい資料を充実させていくということを取り組んでいきたいと考えております。

2点目は、昨年度の協議会で御指摘、御要望のあった、県立図書館e-Netサービスの実施です。小郡図書館は、まだ実施できていなかったもので、今年度に足がかりをつくりたい。県立図書館と中央図書館の協力も要ると思いますけども、何とか、利用者の御要望にこたえるように頑張っていきたいと考えております。

○会長

ありがとうございました。秋穂図書館お願いいたします。

○事務局

今年4月に着任ということですので、昨年までの実績については、ここに書いてあるAV資料の充実ということであります。秋穂図書館は今年でちょうど丸7年目になります。蔵書の充実にしっかり軸足を入れてきたということで、かなり蔵書が増えましたので、今後、それを今度は閉架のほうへ開架から資料を持っていきたいというものも、考えておるところでございます。

この29年度の主な取り組み、3点をあげておりますように、上映会の開催、読み聞かせ講座の開催、図書館友の会・秋穂との協力体制の強化と掲げております。特に、秋穂図書館では絵本等の幼児児童図書関係が充実しているということを軸足にして、これまで図書館整備を進めていたと引き継いでおります。

これの充実と、さらに小中学校もありますので、今度はその上の児童生徒関係に軸足を置くような、そういう取り組みをしていきたいと思っております。

あわせて、図書館友の会を中心に、さまざまなボランティアの方とか協力団体と強化を重ねて、地域の図書館としての充実を図っていききたいと考えているところでございます。

○会長

どうも、ありがとうございました。それでは、阿知須図書館。

○事務局

阿知須図書館では、28年度、29年度、大きく3項目に整備をして運営を進めてきました。また、進めていこうと考えております。

これは利用者さんにとって、利用しやすい環境づくりということで、今年は積極的な除籍ということを大きなテーマに掲げております。小郡の図書館からもありましたけども、実は27年度と28年度の蔵書冊数はマイナス0.1%。28年度も相当除籍をしたつもりではありますけども、新しい本を少しだけ上回る除籍という状況で、大変除籍にパワーを使っています。いろいろ効率化を図っていくため、除籍をしてきた。なぜかといいますと、計画当初は4万冊、開架4万冊で建築しております。今、4万8,000冊あります。2割ほど多いので、書架に余裕がないということ、利用者さんにとって、本を取り出しにくいような状況になっております。それから次に、丁寧な接客態度。これは当たり前ですけども、笑顔でわかりやすい言葉で対応を引き続き進めていきたいと考えています。資料展示コーナーは、いろ

んな企画物をしまして、利用者さんに来ていただく回数をふやそうとしています。

それから、2点目の大きな項目です、新たな利用者の拡大促進ということで、佐山地域、佐山地域交流センターに図書館だよりなどを置きまして、情報発信に努めています。阿知須図書館が、5割が阿知須の方、3割が宇部の方、佐山地域の方は1割を下回るような利用状況であります。もう少し、佐山地域の方にも使っていただくということで情報発信をしています。次に、参加型イベント開催。これも、きっかけづくり、新しい方に来ていただくということであります。年2回のイベントを中心に、祭りを中心にイベントを開催していこうと計画しています。それから、ブックリサイクル。これも年2回行っております。約1カ月間続けて、ブックリサイクルをしております、なかなか利用者さんに好評でございます。これも来ていただくきっかけになろうかというふうに思っております。

あとは、展示ロビーの開放ですが、宇部の方にも結構活用いただいております。それから、3点目の項目ですけど、学校等との連携。これは連絡会議を開催して、小中学校の図書先生とともに情報交換をしております。

もう1点、昨年度から始めましたが、隣にあじす保育園がございます。年長さんにカードをつくっていただいて、週1回定期的に本を借りに来ていただいております。そのあじす保育園には未就園児が来られる日がありまして、お母さんと一緒に来られる日があるんですが、この日に図書館に来てもらおうということで、小さいころから図書館になじんでもらおうというふうな、本になじんでもらおうというふうな取り組みを進めております。

○会長

ありがとうございました。では、徳地図書館長。

○事務局

徳地図書館は28年度の主な取り組みといたしまして、維新150年に関する図書館での歴史講演会をいたしております。

今までも図書館を身近に感じてもらうためにはどうしようと考えまして、いろんな形のイベントを行っております。引き続きまして、29年度も同様の図書館を身近に感じてもらうような行事の開催という形で取り組みを設定しておりますが、この背景といたしまして、徳地に住んでいらっしゃる方で、まだ徳地の図書館に行ったことがないとか、そういうふうな方がいらっしゃることをいろんな会議で聞いておりますので、まずは図書館に皆さんが足を運んでいただけるような行事、取り組みを考えていったらという形で、これは単年度でできませんので、数年の計画で進めていきたいということで、前館長からの引き継ぎでやっております。そのために、29年度につきましては、明治維新150年を迎えるに当たって、地域づくり協議会等々で、この徳地の奇兵隊の(ボランティア)ガイドをつくらうとしており、その養成講座等の計画がございます。その講座の一部交流という形で、図書館のほうで、資料等を使いながら、いろいろと足を運んでもらえるきっかけをつくったらどうなのかという形で、現在協議中でございます。

主催が徳地幕末維新歴史放談会という形の会でございます、こういった会を中心に行われるものと思っております。

それとは別に、徳地文化協会とか、徳地文化伝承会などの小さな団体がございます。この方々の中にも、地域の歴史などを勉強されている方がいらっしゃいますので、その方々とミニ講演会など開催することによって、地域の身近に感じられるような図書館になっていく一つではないかなと思っております。

以上が29年度徳地図書館の取り組みでございます。

○会長

どうもありがとうございます。最後になりましたけれども、阿東図書館お願いします。

○事務局

阿東図書館では、29年度は、28年の事業を大体引き継ぐという形で考えております。その中で28年度に始まりました各分館配送サービス事業。これは遠隔地の住民の利便性を向上させて読書活動を推進するという事で発足したものでありまして、このサービスの成果は先ほど概況のほうで説明がありましたとおりでございます。

それから、イベント開催による図書館の利用ということではありますが、大きなイベントは、ワイワイこども図書館、図書館まつりがあり、さらにはDVDの上映会を毎月開催しておりますし、折り紙教室を試行的に昨年は1回ほど開催しております。今年ですが、それを同じ形で引き継ぐということですが、分館配送サービスにつきましては、1年目の結果を見たところ、私なりに少し利用率が余り思わしくないんじゃないかと自分なりに感じております。そうしたことから、もう少し制度の周知徹底を図りたいということで、特に地域によって、5地域あるわけですが、地域によって、制度を利用する地域と全く利用してない地域ありますので、その辺の統一的なものを何とかやりたいと考えております。

それから、イベントの開催でございますが、先ほども言いましたように、DVDの上映会とか、毎月開催しております。これは1年を通しまして、人数的にも余り参加がちょっとないような気がします。したがって、今年は開催の頻度のメリハリをつけて、イベントを開催したいと考えております。

もう一つは、啓発の仕方でございますが、いろんなチラシ等を配っておりますけれども、これも、図書館だよりなんか個別に各戸に一応今年から配布をするようにしておりますので、その辺で啓発活動の充実も取り組みとしていきたいと思っております。

○会長

どうもありがとうございました。手短かにまとめていただきまして、どうもありがとうございました。

それでは、副会長、28年度の運営状況報告でも結構ですし、また、主な取り組みということで、何か聞いてみてお帰りくださればと思います。よろしくお願いし

ます。

○副会長

申しわけありません。きょうは半分しか出席できなくて。

感想と質問ですが、非常に普段、図書館だより、中央図書館だとかの取り組み見えておりますが、その中でも、やはり、利用時間の夏の延長の取り組み、あるいは、山口大学、県立大学と本の返却の場所を設けるというのは、これはすごいなと思う。学生も知っているのかな。知らないのは僕だけかなと今思いながら伺っていたんですが、気になるのが2点。これは、当然集計はされていると思うのですが、先ほど阿東の図書館の館長さん、それから中央図書館でもあるのですが、イベントを開催について利用促進ということが目的ということであるならば、その後の利用者数の増減ですね、そういったものというのが資料としてあったらいいと思う。28年度の利用率というのが毎年出てくるのですが、そことの関係ということが余り出てこなく、見えなくて、何月には何件あったというふうな感じですので、その辺の評価がどうであるかということが少し気になったことと、それから、もう一つは、除籍ですか。収蔵冊数の限界を超えた中で、収蔵については、うちの図書館でも苦しみところではありますし、山口大学図書館では窮屈さがちょっと広がって、今まだ余裕があるという状況で、常に蔵書の状況を気にしながらいかなきゃいけないというふうなこともあるのですが、その除籍の際の条件です。どういうふうな、例えば、利用率が低い。ただ、利用率が低いのと蔵書の管理とは恐らく別問題のようにも思いますし、普通あるのは破損とかだとかで、もう使えない、利用できないという物については、よく聞きますけれども、どういうふうな物を除籍されているのかということが少し気になったところです。

以上、質問といたしますか、意見というかです。

○会長

それでは、イベントのことですが、利用者数の増減があるのか、これはどう評価につながるかということですがけれども、イベントをして、利用促進に結びつけるということ、若干だけれども、その変化というものがあらわれるようなものがあるのかということですね。

○副会長

はい。

○会長

もう一つは、当面除籍の基準を満たしてないと新しい本を捨てるとか、利用が少ないということはないかと思えますけど、そのあたりは、これも手短かに説明してください。

○事務局

利用者ですか。イベントによる利用者数増の評価のことですがけれども、毎日（中央では）システムで集計しておりますし、イベントのほうも例えば、中央ですと参加者がわかります。

○副会長

いや、伺ったのは、そのイベントの入場者数ではなく、そのイベントが終わった後、図書館の利用者数が増えているのか、変わらないのか、その辺です。ですから、先ほど、いろいろイベントやっただけでも、それがつながらないようなことを言われた。だったら、今度はそうした増加に向けた取り組みを行いたいというのが次年度の取り組みとして言われていましたので、その辺の基本となるような証拠立てといたしますか、その辺の動向というのはどうなのかなということが一つ気になったことです。

○事務局

すみません。一応、視点としては、入館者数であったりとか、貸し出し点数であったり、そこあたりがわかりやすい指標になろうかと思えますけれども、今現時点では、年間を通じてというところで、ちょっとお見せをしていますように、これは、やはり、月ごとや、そのイベントやった月の後の利用者どうだったのか、前年対比とかということをやっていけばいいのだらうと思います。

今、ある程度の合計的なものを出してはいるんですけども、少し、こういうものが説明できるような形で、今後、させていただこうと思います。

それから除籍につきましては、これは要綱で掲げております。先ほど副会長さんのほうからもありましたように、内容が古かったりとか、破損をしていたりとか、図書館の資料として余りにも必要がなされないものとか、特定の条件があるものにつきまして、除籍の対象の図書を抜き出しまして、その後、除籍の検討委員会のほうで、どうでしょうかと意見を聞きコメントをつけながら、判断をしております。

○副会長

ただ、阿知須図書館のほうじゃ、いわゆる収蔵冊数が4万冊で、それを超えてというふうなことをおっしゃっていた。強制的な除籍になるのかなという、ちょっと思いもしたものですから。

○事務局

実は山口市立図書館の全体で70万冊という目標数値があって、今、ほぼ満杯という状況です。なので、非常に除籍について、図書館でも苦勞しながら進めているところです。

○副会長

なかなか難しい状況かもしれませんが、増床計画とかってないのでしょうか、かなりの予算を伴うことではあります。増床。書庫をふやす。ちょっと大変かもしれませんが、何か捨てるのはもったいない気がするものですから。

○事務局

気持ちは十分わかります。ただ、現実的には、法令や実用関係のものでしたとか、科学的研究が進みまして、これはもうどうだろうという本につきましては、やはり、図書館として、それをサービス提供するのはどうかということもございますので除籍するようになります。一番いいのは、際限なく、倉庫、書庫があって、そこに幾

らでもおるのがよいのですが、国立国会図書館ではございませんので、限られた中で、そういう形で取り組んでいくというところです。中長期的に考えさせていただくものかと思われま。

○副会長

ありがとうございます。

○会長

今の副会長の指摘はとても重要なことだと思ひます。

実は、器に見合うように中を変えていくというのは、ちょっと本末転倒のような気がするので、私は結構、除籍という問題については結構いろいろ考えを持っているもですから。県立図書館も実はそうなんです。平成17年度から、ずっと、もっと前から、もっと増ふやしましょうといっても、中を減らしていくというような、それで本当にいいんでしょうかと思ったりします。やっぱり、今の副会長が言われたように、中長期、もっと増えていくわけですから、資料というのは減ることはないと思うんです。幾ら除籍をされたとしても、だから、そこを考えていかなければならないのではないかと。中央図書館建設のときに、前の教育長さんが、もっと広げてつくろうよとか、おっしゃってくださったようなところもあったんです。すぐパンクするだろうとか、そのときに、もう、地下のほうになぜ書庫をつくらないのかとか、いろいろあったわけですから、これは予測できることだと思うんです。だから、その辺は、また長期的にも、今、よければじゃなくて、10年、20年、考えていただければなと思ひています。

それとイベント後の利用者の増は、利用のカードをつくる人が増えたとか、そういうことはありませんか。また、何かのときに教えていただければと思ひます。貸し出しだけじゃなくて、今まで利用カードを持ってなかった人が、ちょっと、そんなところに行って、つくろうかという気になって見えたというのも、一つの増加という気がして、人が増えたかなと思ったりしています。また、よろしく願ひいたします。

○会長

それでは、平成28年度の運営状況、それから今の主な取り組み、指標なんかも見ながらでもいいので、どこからでも結構でございますので、御質問御意見等をお願いできればと思ひます。よろしく願ひいたします。

○事務局

今、会長さんのほうから御質問がありました、利用登録の変化ですけれども、平成27年度が44.7%、昨年度28年度は47%という形になってございます。

○会長

年度じゃなくて、イベントの後、せつかく来たから、何名か増えたよと、確保したよというのが、今後あれば。

○事務局

わかりました。

○会長

でも、増えているのはありがたいんですけども、できるだけ、全山口市民が利用カードをつくって、まずはつくって、それをまた、みんなで活用して、学生にも言っているんですが、「市立図書館に行って、それだけで帰っちゃいけないよ、中も行ってと、課題を設けたんですよ。利用カードもつくって来てね、強制ではないけれども」と言っているので、また利用カードが何かイベントごとにとか、何か、新規に4月以降になったらというのは、また教えていただければと思います。

はい、どうぞ。

○事務局

昨年、薩長同盟のイベントをやったときには、カードをお持ちの方につきましては、抽選でトートバッグを差し上げますというのをやりまして、参加いただいた方に、当日登録していただいた方にもバックを差し上げるというのをしまして、そこで登録率を上げるという取り組みもやりました。

○会長

すばらしい。

○事務局

そうですね。100名近く、新たに100名近い方が登録されたというのは、記憶にございます。

○会長

ありがとうございます。利用促進、利用促進というか、まずはカードをつくっていただくところから。

どうぞ、お願いいたします。

○委員

質問いたしますが、各館別の各種指標という表がありますけども、この中に蔵書冊数というのが書いてありますが、中央が38万、小郡が10万、秋穂が4万、阿知須が6万、徳地も6万、阿東もまたありますが、一体、どの館は何冊まで蔵書可能なのか、そこら辺を聞きたいのですが。

○会長

所蔵するスペースの問題で、どのぐらいを想定されて書庫をつくられているんだろう、書庫と開架ということの御質問だと思います。

例えば、中央図書館だったら、今、38万5,653冊が、あともう、40万になったらだめなのか、50万までいけるのかとかいうところ。

○事務局

先ほど阿知須のことで、4万とか、4万8,000とか申しましたけれども、これは開架のスペース。どこまで何冊入れられるのか。詰めれば入るし、棚にぽんぽんに入れると、棚の上にでもおけば、物理的には入る。うちのほうが計画で6万ですけども、それは10万冊でも入れられるとは思いますが。ただ、適正な冊数ですね、書架の計画に沿うべきじゃないかなというふうには思っています。それが基本だろ

うと。開架は4万、4万あたり。棚に少し余白ができますので、利用者が抜いても、すぐそこに返せるような状況で利用がしやすい。全館で70万冊ということでありますので、70万冊というのは、やっぱり、計画上のものです。

○会長

ということで、よろしいですか。

○事務局

さっきから、除籍の話が出ていますが、ここには蔵書冊数と示してあると思います。先ほど私11万というのは、雑誌とか、新聞とかありますから、いわゆる点数としては11万点ということでした。それで、年間合わせて約12万冊を小郡図書館に蔵書というふうに言われています。ただ、場所によっては、テーマでやっているんですけども、料理の本とか、健康の本とか、スポーツの本とか、そういう本というのは、人気のあるところは、ものすごく詰むんです。小説とかも、今本が大きいですから、パンパンになってしまうから、どうしても、閉架に上げざるを得ないというのがあります。小郡としては、特色で、ここにも書いてあるんですけど、団体貸し出し用の本というのがあるんです。学校図書館への配送とか中央と小郡でやっていますけども、1階の西日の強いところで本の背が真っ白になったりしているんですよ。ですから、貸し出しにたえないなというのがありまして、それが去年の整理の主な中身でした。ですから、それは、ある程度やったので、今年は、書庫の整理も含めて全体を考えていこうという議論になります。

それと、もう一つ、上の閉架に上げられないというのが、郷土資料は基本的には1階の開架で見せていきたいと思っているんです。ですから、郷土資料につきましては、書架をふやすとか、ちょっと工夫もしなくちゃいけないというふうに、小郡図書館では議論しているところです。

以上です。

○会長

ありがとうございました。どうぞ。

○事務局

阿東では、今、目標5万冊を目標にしております。それで、まだ、阿東図書館は開館して5年、5年ぐらいで、まだ、閉架書庫にはかなり余裕があります。したがって、除籍、先ほどから出ているような除籍の件につきましても、定期的な、3年ほどのというのが雑誌にあるわけですが、そういったもの以外は、ほとんど、除籍をすることなく、そのまま閉架にありますので、少し余裕があるということをお伝えしておきたいというふうに思います。

○会長

どうもありがとうございました。

○事務局

秋穂図書館は、閉架のほうは十分、書架にも十分、まだまだ本当にスペースがあります。ただ、今、開架している中でも、特に子供さんのがおるところ、ぎちぎち

では取りにくいので、取りやすいように、そういう利用を考えながら、そのあたりをしなければいけないかなということで考えております。確かに秋穂図書館に来ていただいたらわかるように、低い位置で見えるような、そういう設計をされているので、スペース的には広く見えるということで、そんなところから視察に来られる方も、余裕を持って図書館におれるねという、図書館イメージがあります。上になら本を何ぼでも積めるかもしれません。そういうわけにできないと思いますので、今ある中で、工夫しながら、また、いい環境の中になるようにしていきます。表紙見せは、ほかの館でもやっているものだが、余裕のある棚でやっているところ。

○会長

次、よろしいですか。

○事務局

徳地図書館自体が、建設が合併前の10年前、8年ぐらいだったので、こんな形で、余裕があるような形で建っておりますけど、どんどん蔵書が増えて、今十数年ということなんですけど、もう1割ぐらいしか、余裕がないんじゃないかなと思っております。ですから、あとはもう書庫とは別の小さな部屋がありますので、その辺の活用でやっていく方向しかないかなというふうに考えております。

○会長

ありがとうございます。

それでは、お願いいたします。

○委員

質問を中心に、4点ほどお願いします。

○会長

1つずつ行きましょうか。

○委員

1つはすごく単純な質問ですけれども、除籍された後、雑誌については定期的に利用者の方に提供するというのはお聞きしているんですけれども、一般書の場合は、その後、どうしておられるのかということです。

○会長

中央と一緒に考えてよろしいですか。他の図書館も。

○事務局

一番問題になりますのは、除籍の後に古書店やオークションなどに出回っているというのが、一番困るということで、除籍をする本につきましては、図書のラベルですとか、そういうもののところに、最後にもう1回、除籍というような形がわかるスタンプを押しまして処理しています。

○委員

2つ目は、以前、ぶっくんがいろんなイベントに出向いて行って、とてもいい取り組みだなと思ったんですけど、今回の資料で、それをやっているのか、どうなのかというのが、ちょっとわからなかったもので、資料2の表、表部分の移動図書

館管理運営業務のところ当たるかなと思うんですけども、28年度にそういう事業をやっておられたのか、どうかということをお尋ねします。

○会長

お願いいたします。

○事務局

昨年度の移動図書館が、例えば、交流センターのお祭りとかに出向きまして、青空天国いこいの広場にも出向きまして、利用促進のほうをしています。昨年度は、一昨年度よりは、たくさんイベントに出かけておりまして、利用者なり、協力していただく方が増えたというふうに記憶しております。済みませが、数字は出しておりません。

以上でございます。

○委員

とてもいい取り組みだと思うので、ぜひ、続けていただけたらなというふうに思います。

それから、3点目と4点目はちょっと関係があることです。資料3の中央図書館の29年度の主な取り組み、28年度もしておられるんですけども、中央図書館のところには、市他部署と連携した、いろんな行事の実施というのがあるんですが、例えば、中央の場合は健康増進課と健康づくり講座が開かれていますけれども、ほかの館では、そういうことをされておられるのか、予定があるのかということと、特に中央図書館の場合は、市の他部署だけでなく、建物そのものがワイカム（YCAM）（YCAM）と、何と言ったらいいんですか、これは、ちょっと名称が難しいんですけども、財団部門というんですか、アートのほうと同じ建物の中にあって、去年の夏はコロガルガーデンに来られたお子さんが随分図書館の利用をされていたと思うんです。そういうワイカム（YCAM）（YCAM）の取り組みと図書館とか、積極的に連携して何かをするということが検討されているのかどうかということをお聞きできたらと思います。

○会長

それでは、最初の3つ目から、小郡とその他の方たちで、なかったら、今のところはないとおっしゃって、無理されることはないですけども、現状と、これからの計画とかあれば、お伝えいただければ。

○事務局

他部署との連携というのは、非常に労力とエネルギーが要ると思います。なかなかそこまで行けないというのが現状です。そのかわりといったらなんですけども、ここにも書いておるように、「鉢の子」友の会、図書館友の会との連携ということで精いっぱいやっているところでございます。

○会長

ありがとうございます。それでは、次、秋穂図書館。

○事務局

中央図書館とうちの図書館は、ちょっと若干違うと思うので、中央は市の代表という中でやっているのがあると思われま。連携と言うと、秋穂の場合は、秋穂図書館は、地域交流センターと複合ですので、とにかく、何かあった場合も、まちづくり協議会が紹介するとか、そういう感じで、そこに活動されるボランティアの方でも、そういう中であるというの、通常です。大きなことはできない。もし、あと、できるとしたら、同じ教育委員会などで、学校との間のつながりかなと。できる範囲はその辺かなと、私は思うんです。

○委員

秋穂図書館は良いですけど、秋穂図書館って、本当スタッフの方がぎりぎりなんですよね。秋穂の中のどこかと連携してと言われたら、ものすごくきついと思うんです。それで、私たちが出しゃばって、いろんな講座を組むときに、図書館と相談し、場合によったら、図書館も共催にするし、今回そうしようとか言っているんですけど、同時に、じゃあ、きょうは国際交流の団体さんと一緒にするとか、そういうのを私たちが提案したりして、いい恰好で協力できたらなと思って、今やっています。多分、今の体制じゃ無理ですよ。館長さんもすごくよく動いてくださる。この間も講談社のお話キャラバン呼ぶときも、各校長先生に全部話しに言ってもらったり、すごく動いてくださって、何か、にぎやかになったと聞いています。私はちょっとかぶって行けなかった。だから、一緒に御相談しながら、一緒にという恰好でやれたらなと。

○事務局

委員さんの言葉をそのまま、引き継いでなんですけれども、囑託職員さんに本当に精力的に仕事をしていただいています。ただ、限りがあります。マンパワーですね。それと、総合支所において事業をするに当たって、戦略的だったり攻めの事業推進というの、やはり、こちらのほうも、事業の主幹部隊は本庁でありますので、そういった意味でも、なかなか総合支所もまた限りがあるという中で、私のほうのやれる範囲ということで、先ほど紹介しましたけれども、保育園と学校と連携。このあたり、やれるところからやっていくところでもあります。

○会長

ありがとうございます。それでは徳地図書館。

○事務局

徳地まで、どうしても距離がございまして、徳地総合支所も本庁業務、事業をもって動いておりません。その中でも、図書館としての連携ということになれば、先ほど申しましたように、地域の団体、地域づくりのボランティアの皆様とか、シニアの健康サロンのグループなどと連携していくというふうな形になるのかと。地域づくり協議会も参加の皆さんとの連携というのは、主な連携になっていくんじゃないかと思えます。

○会長

ありがとうございます。では、阿東、お願いします。

○事務局

阿東でやっていた2件ほどあるんですが、1つは、どこの館も同じですが、図書館と健康増進課、保健センターですけど、ブックスタートというのがあるんです。ブックスタート事業。保健センターのほうに出向いてもらって身体相談とか、そういった形の中で、絵本の読みきかせとか、そういったのをやっているということです。

それと、あとは先ほども出ておりますが、分館の配送サービスということで、これが今の地域交流センター、各分館で、貸し出し返却、予約本の受付、地域の登録者の受付とか、そういったことをやってもらっていますんで、そういったのが連携のもとになっているんじゃないかなというふうに思っております。

それから、今年は、地域交流センターで、文学講座というのをちょっとやるところなんですけど、そこで、図書館の文学講座にならって、一緒にやらないかという話が出ております。その辺で、地域交流センターとの連携もやる予定にはしております。

○委員

4つ目は、ワイカム（YCAM）との連携についてです。

○事務局

ワイカム（YCAM）との連携につきましては、開館以来の課題でございますので、いろいろ説明があったかと思いますが、去年はコロガルガーデンというのを、本当に家族全体で楽しめるような、子供さんは待ち時間に宿題をやっていただいたり、その経過で中央図書館の利用者も増えたという、明らかに相乗的に結果があるんですけれども、今年につきましては、ワイカム（YCAM）のほうの専門員さん含めかなり人も入れかわったりしている状況でございます。まずは図書館の中にワイカム（YCAM）本棚をつくっています。ワイカム（YCAM）の職員さんが選んだ本の展示をずっとしております。ワイカム（YCAM）本棚はきらびやかなネオンがついておまして、来られた際には、ぜひ、御利用くださいという状況でございます。

なかなか目に見える形でやっていくというところが難しく、模索をしているところでございます。

○委員

ありがとうございます。各館で、それぞれ企画をされるのが大変困難ということは重々わかったんですけれども、例えば、今回大変ありがたいというのは、資料1というのは、すごくはっきり数字を打ってあるので話がしやすいと思います。大変ありがたいと思いますが、資料1の3ページのところの、これ多分③のまちがいではないかと思うんですけれども、本の読み聞かせ講座というのがあるって、これは3年連続で行われた講座で、中央図書館のほうで企画されて、1年目は徳地と小郡で、2年目は山口と阿東、3年目に阿知須、秋穂でされているんです。そんなふうに、例えば、健康づくり講座を中央図書館で企画して、中央図書館でやるだけでな

くて、その企画を例えば小郡でもやるとか、そういう一つの企画をそこだけで完結させるのではないという方法も考えられるんじゃないかなということをし添えて終わります。

○会長

ありがとうございます。御検討いただければと思います。
このためには、人もまた必要かと思ひます。マンパワーでも、そういうふうにも、企画があるものをちょっと回していこうかというようなことも御検討いただければと。

どうぞ。

○委員

ワイカム（YCAM）との連携ということで、ワイカム（YCAM）の本棚を作られたとありました。今年、山口には文化トピックとして中也の生誕がございませので、中原中也生誕110年で、市長もすごい力を入れて、いろんな行事をすとおっしゃっておりますので、ぜひ、中央図書館にそういうコーナー等々あればいいなと思ひます。

○事務局

それについては、今はありません。中原中也記念館からの計画がございまして、秋ごろにイベントされるというふうに、大々的にされるということです。その中でスタンプラリーというふうなことで、中央図書館のほうがスタンプラリーのポイントというふうになっております。

それと、それにあわせて、企画展示のほうも一緒にしようかということで、今考えているところです。

○会長

よろしゅうございますか。

○委員

いや、なるべく早く、秋ではなくすぐにやるべきでは。

○事務局

秋が命日ですので。

○委員

スタンプラリーやるのは聞いているんですけども、もっところ、早くすごいなと思ひるものをやっていただきたい。やっどできたといえ、レノファと連携している市町の図書館で何かやってくれないかと思ひていたら、やっど、できてよかった、山口のチームかなと思ひる。だから、やっど、いろいろなところと一緒に、山口市を盛り上げていくような活動を図書館はやっていくべきで、やっていくと、市民の方も、または行って楽しくなるのではないかなと思ひていたので、そうしてほしいなということす。

○会長

ありがとうございます。

○委員

それともう一つ。

○会長

はい、どうぞ。

○委員

いいですか、すみません。資料1の学校図書館の支援サービスの推進事業で、モデル校湯田小に学校図書館指導員を派遣するとともに書いてありますが、この学校図書館指導員というのは、ほかの学校にも派遣しているのではないですか。これ、何か特別なことなんですか。湯田小に関しては特別に何かやられているということですか。

○事務局

中央図書館のほうから派遣しているのが学校図書館指導員です。内輪の話で申し訳ないですが、今学校図書館におられる方は学校教育課のほうからの派遣になります。

○委員

雇用が違うという。同じだと皆さん思っただらっしゃると思うんですけど。たくさん派遣していますか。

○事務局

現在はひとりです。人がちょっと手厚くなっています。

○会長

では、どうぞ。

○委員

すみません。湯田小の件ですが、私、読み聞かせに月に1回行かせていただいているんですけども、今年に入って、図書室に常時人がいらっしゃる。大抵2日ぐらいしかなかったですね。その方とは別に、あいているところへ、図書館から来ていただいて、常時いらっしゃって相談に乗っていただけるという、そういう状況であります。それと、

○会長

どうぞ続けて。

○委員

各図書館でいろんな工夫されて、独自に本当いっぱいやってらっしゃって、ただ、その中には、除籍にしろ、講座を開催するにしても、共通した部分もあると思うんです。それぞれがやってらっしゃることをお互いに情報交換は多分してらっしゃると思うんです。だから、もし、それであれば、中央図書館で使ったもので使えるものは秋穂でやろう、阿知須でやろうというふうな形もとれるであろうし、それから、また、中央図書館でやっていることで、対象が少ないから、もっと広げるためには、こっちへ持っていったほうがいいんじゃないかというような、そういうような情報交換なり、協力なり、これだけいろんなことをやってらっしゃる中に、共通するも

のと各館独自のものがあると思うんです。その独自のもののところで、もし、広げていって、全部の館がそれをやれるものがあるとしたら使えるんじゃないかなど。その辺の展開はなされているのであろうかということです。

○会長

例えば、館長会議とかあって、それぞれの情報交換とかされて、一ついいのは、ワイワイ図書館が、子供図書館ということが、一気に4月30日でしたか、各館6館がなさるといような、これは連携とられているんだろと思いますが、何か、そういう情報交換というのがありますか。

○委員

実は、ワイワイ図書館の活動、全部私が撮影してきました。各館へDVDを渡しております。これは4月29日に事前に撮影時間を連絡して、30日にずっと全部回って撮りました。といいますと、移動の時間がすごい長いものですから、各館15分から30分ぐらいしかおれないけども、行くんだったら一番いいところだろうというところに、行って撮影しようということです。例えば、小郡の図書館の科学実験なんかは撮影したかったが、中央図書館のほうも、いいことをやっていたから、中央のほうへ行っただけです。（笑声）

撮影できなかった分は各館から写真を撮ってもらって、その写真と動画を合わせて構成しました。そして、5月中旬になりまして、各館館長さんにどうだったかというお話をさせていただきました。その館長さんの話を中心にしまして、動画と静止画を入れて構成しました。これが全部で26分54秒になっております。DVDにしておりますので、各館には全部ありますから、ごらんになりたい方はどうぞ。また、私のほうに言ってくだされば、お貸しますから。

○会長

どうもありがとうございます。

ということで、連携はとられているということでした。

○事務局

市内各館のお知らせやいろんなチラシであったりとか、行事予定とかいうのも、図書館のホームページとかでアップできる形になっております。規模とか、いろんなことで、この図書館でうまくいったからって、次の図書館でそのまま実施するわけにいかないとか、そこをちょっと考えていかないといけないこととございます。それぞれ皆よそのをよく見ながら事業とかもいろいろすると思いますし、何よりも一番使っていただいている方に、特に地域館については、一番大事にするところはどこなのかというところの視点で、行事なり何なりでも考えると思いますし、中央館も中央館で全体を考えた上で、じゃあ、どうしようということを考えます。小郡の場合拠点館というので、いろいろ考えますので、そのあたり御参考にしていただこうと思います。

○会長

ありがとうございました。お願いします。

○委員

4つほどあります。

○会長

1つずついきましょう。

○委員

数値をたくさん出していただいております。私も図書館は好きなんですけれども、図書館を使っている、図書館を好きな人のリピーターが多いということを少し感じています。

あと、登録者数の増加というところも、努力されていることを聞いたんですけれども、一つ、レノファのトロフィーの展示の件です。今中央図書館であるんですが、あれは中央図書館だけではなくて、周回というか、持ち回りというか、されてはどうかというのを一つ思いました。レノファはすごく人気で、子供もトロフィーを見たいと思うんですけれども、例えば、中央まで行くのに、お父さん、お母さんに車に乗せていってもらわないと見られないということもあります。なので、場所の問題とか、どうするんだと言われてしまうかもしれませんけれども、中央だけではなくて、市域が広いので、全部の子供たちや、レノファのファンすごく多いので、大人の人にも見てもらえるように周回されるという案はなかったのかなということをお聞きします。

○会長

周回か何かありますか。

○事務局

レノファ側から、今はまだ図書館にあるんですけれども、当初4月末までということでお借りをしておりました。今言われた各館を回すということになりましたら、レノファのトロフィーだけでなく、いろんな資料があり、一緒に展示するという話になろうかと思うんですけれども、そのあたりの話は、中央のほうにぜひ来てほしいということで置いたということがありますので、地域館のほうまで行くということまでは検討しておりませんでした。

○会長

じゃあ、2つ目。

○委員

じゃあ、ぜひ、各館に、うちにも置かせてくれというのを、要望をレノファのほうに出されてはいかがかなというふうに私今思いました。

それと中央図書館さんのほうから、15年目になるから備品等の更新が必要ということを知りました。実は小郡図書館が来年10周年のはずだと思います。周年事業というのは、それこそ、図書館好きのリピーターの人だけという施設ではないと思いますので、余り普段図書館なんて行ったことはないという人とかも呼び込めるようないいタイミングだと思うので、小郡図書館10周年事業というのは、小郡図書館だけではなくて、市として、どういうふうに考えておられるかというのを聞き

たいです。

○会長

来年が10周年ということですからけれども、何か計画とか、今の段階でありますでしょうか。——また、次回にでもですかね。現時点、周年事業とか、今29年度がスタートしたばかりで30年のことは難しいかもしれませんが、早くスタートしていくべきかと思うんですけれども、もし、するようでしたら、早目にいろいろしていかないとけませんので、どういう形がいいのかというところで、また、ちょっと館長会議でも取り上げていきたいなと思っておりますが、よろしいでしょうか。

○委員

それから、利用者とか、友の会の方とも一緒にぜひ盛り上げていただければ、もし、10周年をということで予算化していただければと思います。

○事務局

委員さんから、課題が、宿題としていただいておりますところなんですけど、言いましたように、イベントだとか、そういうのもあるんですけども、例えば、地域資源をどういうふうに残していくのかとか、開架をどういうふうに充実していくのかとか、そのためには本棚の増設とか、そういったところは、ちょっと予算化も伴うことで、検討していくところではありますから、今の課題含めて10周年に向けて、あと1年と弱になりますけども、考えていきたいというふうに思っております。

○会長

じゃあ、次、よろしいですか。3つ目をお願いします。

○委員

学校図書館との連携というところで、団体貸し出しのこととかをいろいろお聞きしました。ありがとうございます。学校図書館というと、学校だけではなくて、ボランティアのお母さん方とか、あとPTAで何かクラブを図書室関連のクラブみたいなのをつくってらっしゃる学校もあると思うんです。そういうところも取り上げて、連携というところをしていったほうが、「学校のお話ボランティアとかには参加するけど、図書館には行かないわ」みたいな人も、すごく多いというのを実感しています。そういう学校の行政としての団体ではなくて、そういうグループとの連携というのは、どういうふうにお考えかというのを教えていただきたいです。

○会長

グループですか。

○委員

学校との連携ということは言われましたけれども、そういうふうな、団体、読み聞かせの会とか、いろいろあるかと思いますが、そういう団体のこととか、連携とかやってらっしゃるところってありますでしょうか。だから、学校とではないわけです。学校に附随というか、例えば、学校が、うちの学校にはこういうグループさんがあるよというようなことを把握してらっしゃるとか、それは当たり前なんですけども、その方たちの声を拾って図書館に伝えるとか、そういうつながりみた

いなのがあるかどうかというのを教えていただきたいです。

○委員

秋穂は、教育ネットのコーディネーターさんが学校に配置されていて、そこを通して、読み聞かせの人数なり配置とかというのをコーディネーターさんが投げかけられて、お話のグループはメンバー決めて、また、コーディネーターさんとして、学校とお話になっている。

○委員

だから、そういうところと図書館の連携は……。

○委員

図書館が直接ではなくて、コーディネーターの方がいらっしゃると。教育ネットの方と連携する。

○委員

そういう感じなんですかね。皆さん、ちょっと、うんとかいう感じですけど。これは、連携という形のものは、今までできていないということですかね。

○委員

だから、図書館の司書さんが遠くへ行くとかというのは、学校と連携しているのですけれども。

○委員

学校とではなくて、そういう読み聞かせの会とかとの連携です。

○会長

学校図書館を支援してくださっているボランティアであったりとか、そういう方と図書館ということですね。

○会長

それは、また少し、そういう御検討も、この連携というのものもあるんじゃないかということですね、実態を知りたいということかもしれませんけれども。

○事務局

逆に、そういうボランティアさんとかが図書館をどういうふうにご利用されたいのかとかいうことでしょうか。ちょっと話を聞いたことがあるのは、「私たち、学校図書館のボランティアは、学校のほうで私たちが読みたいような本を入れてくださっているので、そこで借りるなら図書館行かないんですよ」というお話は聞いたことがあって、今の話を聞いて、私たち図書館から、どういう投げかけをしたらいいのか、ボランティアさんのほうも、どういう御希望があるのか、今、皆さんがどんな考えをおもちかとか、そこら辺まず、私が知りたいなという項目でございます。

○委員

うちのボランティアさんが、受け入れのボランティアとして学校図書館でやっていますが、その全部で学校に持ち込む本も、自分たちで図書館で借りてらっしゃる方がほとんどです。学校の図書館というのは、ちょっと普通入りにくいので、学校の読み聞かせをするときなんか、学校図書館や図書室でやられることもあります

が多目的の部屋でやったりするから、図書室はむしろスルーしているようなところがある状況なので、地元の図書館のほうで本を選んでらっしゃる姿をすごくよく見ます。

○事務局

10冊、20冊、30冊とかをご家族のカード全部使って借りてらっしゃって、読み聞かせのボランティアに使われるのかなとかいう方をお見受けするので、こういう方たちに、どんな形で図書館としてサービスをしたらいいのかしらというところですか。ちょっと勉強不足で申しわけないです。

○会長

一応、じゃあ、そういう実態だということで。次を、お願いします。

○委員

小郡図書館2階が団体室、多目的室、会議室とかあって、すごく立派な部屋があります。地域団体の利用促進というのは、どういうふうに各館の方が工夫されているかというのを教えていただきたいです。

というのは、私たち「鉢の子」がいろんなイベントをするので、文化団体の方たちが、あそこの部屋を貸してというふうに、私たちに言われることが多くて、その方たち、カウンターに行って、2階借りたいんですけどって言えばいいのになと思っています。その方たちが何で「鉢の子」に言ってくるのか。「鉢の子」の部屋といっちはいけないんですけど、もっと利用団体が増えて、図書館って、すごく便利というふうに、広められていないからなのかなと思っていました。例えば、私たちも、サポートとして、カウンターに申し込んでくださいとかと言うのは言うんですけども、そういうふうにお声かけしていただければと思います……。

○会長

拠点館と地域館の方に、特にお話がいつているようですけども、地域の団体の方との連絡についてお願いします。

○事務局

十分御理解されていると思いますけど、図書館の会議室等、全部で3つあるんですけども、図書館関連の方にはお貸ししております。例えば、当然「鉢の子」さんは行事を当然やられますし、会議もやられます。最近では、お話の会も、皆さんが小郡図書館を中心に使っていていただいております。ただ、なかなか図書館に限って、そういう活動をされているというか、そういう方っていうのは、そんなに多くないようで、ちょっと私の認識不足かもしれませんが、要望があれば、幾らでもお貸ししますし、また、そういう要望、また、広められていくという作業も、今の話では要るということもありますので、また、一緒にその辺も考えていけたらというふうに思います。

○会長

いまそれぞれにやっていませんけど、ということですね。

○委員

貸し館サービスについてなんですけど、小郡図書館だけではなく、市全体で図書館の貸し館サービスというのは実際に行われているのかどうかです。一般というか、もちろん図書館利用者というか、団体などは別として、よく都会とかだったら、有料で貸し出しているとか、いろいろありますので、そういうサービスというのは、実際に山口市はどのようにお考えなのかは聞きたいです。だから、小郡だったら、図書館の団体ではないけれども、例えば、図書館に関することだったら、借りられるのかどうか、すごく使わせていただきたいなとか、今思っています。また中央図書館はどうなのか。せめて、どれぐらい貸せるようなスペースがあるのかをお願いします。

○事務局

まず、中央図書館は、基本的に図書館の中以外は、ちょっとワイカム（YCAM）、文化振興財団さんのほうで借りるような手続が必要でございますので、そこはあいていけばという形になります。各図書館さんについては、やはり、原則そこで活動してらっしゃるような団体さんを中心に使ってもらってらっしゃいます。（発言する者あり）はい。要綱に沿って、部屋のほうは利用していただけるようになってはいます。誰が利用できるのかとか、そういうのを要綱で決めてあったような気がするんですけど。

○委員

あいているのがもったいないと言うとおかしいんですけど、活用していきましょうということですよ。だから、制限するんじゃなくて、あいているときは、できるだけ校区の方が使えば、もっと、足を運んでもらえるかなというところにつながるかなと思っています。はい。

○委員

ちょっとお聞きするんですけど、図書館だよりですよ。各館の。あれは各館によって、どういう頻度で、どういう人に配られ、配られているかということですけど、図書館に置いておられるのか、それとも各戸配布か、どういう形で皆さんに渡っているんですか。

（発言する者あり）月に1回とか、何カ月に、頻度と対象範囲。

○事務局

中央につきましては、月に1回図書館だよりを出しておまして、それを交流センターとか、学校に配布しております。交流センターでいうと20枚とか、学校でしたら10枚とかいうふうに配っています。学校図書館に張っていただくような想定、地域交流センターには、棚に置いていただいて、自由に取っていただくというような想定で配っております。各戸配布とかはしておりません。

○委員

だったら、図書館に行かれない人には永久に渡りませんよね。図書館を知ろうと、ちょっとどういうところか知ろうと思う人には絶対渡りませんよね。

○事務局

交流センターに行けばありますが……。

○委員

交流センターにまで行きますが、各戸に行くような方法がないですか……。

○委員

秋穂は、地域情報誌「あいお」というのがあって、図書館のページがあるんです。

○委員

あれが一番いいですね。

○委員

それは各戸配布。

○委員

そうしてもらいたいなって。

○委員

もちろん別に紙媒体のいろんな情報があったり、図書館だよりをつくっていらっしやるので、それはそれで置いてありますけれども、それ「あいお」は配布になって、図書館だよりとほぼ同じような内容が地域情報誌の各戸配布のカラーの部分にあります。

○委員

地域の情報誌に1ページぐらいつくってもらうわけにはいかないんですか。そしたら、みんな、誰も読まれるから、ちょっと興味持たれるんじゃないんですか。

○会長

では、これは要望として、今御意見聞くということとはなしとします。

○委員

図書館だよりのことで思ったんですが、地域交流センターにちょっといたんですが図書館だよりとかが地域交流センターに置かれていますけども、ほとんどそのまま廃棄するという感じで、わかりやすく置くと取りやすいもったいないなといつも思っていました。やっぱり、年間1回ぐらい全戸に配布されたらいいかなと常々思っていたんですから。

○事務局

阿知須です。まずもって、各地域、市内の地域によって、地域情報誌のあり方が違います。秋穂と阿知須が全く違います。地域情報誌の内容が。阿知須は交流センターで地域情報誌をつくってしまして、それは4ページでしたか、ね。8ページですか。その1ページをふやそうと思えば、偶数でなくちゃページの構成ができない。

○会長

すみません。それは？

○事務局

折りたたみの形になります。そういった事情があります。阿知須の場合、全体の地域情報誌が年1回か2回別にありますけども、理想は各戸配布。よくわかりました。なかなか相手があることですので、それと、そのことを踏まえつつというよう

な、年に1回というようなところから、回覧ですとか方法もあるかと思えますけれども、それも、また、予算的な、それと配っていただく自治会のオッケーが必要になるものです。

○事務局

各地域でさまざまな事情がございます。なかなか各戸配布は難しいんですけども、市報につきましては、昨年も、図書館特集で中央を秋にやりまして、今年も地域館を中心にやる予定でございますので、ぜひ、そういうものを活用していただければという思いでございます。

○会長

すみません。もう一つ、第三次山口市立図書館サービス計画というのを忘れていて、すいません。これは御報告程度だと思います。また、秋にきちんとした計画案がと出てくるかと思えますので、ごく簡単をお願いします。実は、新しい方は初めてだと思えるんですけども、再任の者については、多分、これを聞いているということです。ただ、新しい方いらっしゃいますので、すみませんが、コンパクトにまとめてお話をお願いします。

○事務局

それでは、31ページの地域図書館サービス計画の体系につきまして、資料4をごらんください。

今、会長さんもおっしゃいましたとおり、3月の中央図書館協議会で、一度取り上げておりますけれども、新たな委員さんを迎えておりますので、再任の委員様におかれましては、復習として聞いていただければ幸いです。

まず、第二次の計画につきましては、計画期間が平成24年から29年ということで、今年が最終年でございます。今年、三次の計画を策定することといたしまして、今、内部で検討を進めているところです。

サービス計画の体系図ということで、今、上側が現状、下側が体系の案ということで、お示ししております。

まず、目指す図書館の姿ですけども、これは二次から引き継ぎまして、「どんなときも身近に役立ち、出会いを大切にする図書館」ということで、目指す図書館の姿を掲げております。

この「どんなときも」というのは、学ぶ、暮らす、働く、遊ぶなど、日常生活のあらゆる場面で対応できるように、また、活用できるようにという願いが入っているものがございます。「身近に役立ち」とは、気軽に図書館が利用できて、相談体制が充実していて、課題や悩みを解決できるよう、手助けできるようにと願いを示しております。それと「出会いを大切にする」というところは、人と人、本と人を出会いの場をつくる場所になってほしいというところでございます。

現行のサービス計画を引き継いでいこうということでの姿になっております。

次に、目標として、3つの目標を掲げております。

まず1つ、基本目標の1が、地域を支える情報拠点として、利用者に役立つ図書

館ということで、こちらは現行の市民に役立つ図書館というところから、利用者に役立つ図書館ということで、市民を利用者というふうに変えております。こちらは行政支援サービスというところに力を入れていくということも、さらに盛り込みたいという思いがございまして、一般の市民の方だけでなく、行政に対するサービスも行っていくということ、幅を広げたということで、利用者という形にしております。図書館に来られる方だけということではなくて、市民と行政というようなことで、そういったものを含めて利用者という表現にいたしているところです。

この基本目標1の中には、例えば、通常のサービス、図書館サービスだとか、移動図書館だとか、交流センターへの配本サービスのような地域全域にわたるサービスの提供の部分であるとか、ホームページや図書館情報システムといったあたりの利用者の利便性の向上についても、この目標に入っていると考えております。資料の収集や行政関係資料の連携、それとレファレンスのあたりも、こちらに入れていくというようなところでございます。

また、地域資料の収集だとか、行政資料の収集のあたりも、こちらの目標の中に入れていくということでございます。今後目指す方向ですとか、具体的な取り組みについては、また、協議会なりでお示しをしていくということを考えております。

次に、基本目標2ですが、次代を担う子どもの育成を支援する図書館ということで、こちらは現行と同じ目標としております。当然、子供たちが読書に親しむような環境を整えていく部分だとか、学校や幼稚園、保育園での子供たちの読書活動が活発になるようにというようなところを、また、それらを支援していくというようなところが目標の中に入れていく方向になっております。

それと、ブックスタートや児童サービスあたりというところも、こちらに入れていくということで、子供たちの読書推進のための取り組みを入れていくというところでございます。

それと、基本目標3につきましては、前回から大きく変更されておまして、「市民の知的好奇心を刺激し、地域に潤いを与える図書館」というところですが、これは、図書館活用推進事業を意識した形のものになっておまして、山口歴史講座、ワイワイ図書館や図書館まつりのようなイベント、そういった取り組みによりまして、利用層を拡大していこうというような願いが基本目標に入っております。

それと、時代の流れといいますか、図書館で昨年度市民アンケートを実施しておりますけれども、その中で、図書館を居場所として、図書館にいて、快適にここで過ごすというようなことも求められているというようなところ、アンケートの中に出ておりましたので、そういったサードプレイスとして、家ではない職場でもない図書館、家ではない、学校ではない図書館というようなところで来ていただけるような取り組みを入れていくことを、基本目標の中に入れていくということも考えております。いずれにしても、図書館に行けば、何か催し物をやっている、何か出会える、心が和む、潤うとか、何か心地よく和むというような場所にしていこうというような思いをこの基本目標の3に入れていっているところです。

	<p>これまでのサービス計画、基本目標3のほうには、協働のまちづくりという、そういった部分も入っていましたが、これは各取り組みの中で溶け込ませていって、協働という手段によって各取り組みを進めていこうというようなところがございしますので、もちろん協働という部分も、このサービス計画の中には示していくということは考えていきたいと思っております。</p> <p>以上が今の現時点での案でございます。</p> <p>今後は、計画の素案など形になってまいりましたら皆様へお示しをいたしまして、また御意見をいただく機会を設けようと思っております。</p> <p>その後、パブリックコメントをしたり、教育委員会の中で協議ということで、今年度末までに完成をして、30年度からスタートというふうに考えています。</p> <p>現在、この計画だけでなく、市全体の計画、山口市総合計画だとか、教育振興基本計画いうところも、同じ来年29年度で終わらして、30年度からとなっておりますので、そちらのほうとも歩調を合わせながら、計画を立てていくということにいたしておりますので、また、随時皆さんの御意見伺いながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>○会長</p> <p>以上で説明事項は終わりましたね。まだまだあるかとは思いますが、時間になりましたので、次回は秋ごろご案内があるということですので、第1回の山口市立中央図書館協議会を終了させていただきます。</p> <p>○事務局</p> <p>貴重な御意見をたくさんいただきまして、誠にありがとうございました。</p> <p>今後もお力添えをいただきますよう、よろしくお願いいたします。</p>
	<p>山口市立中央図書館 TEL 083-901-1040</p>